

# レポート・論文の執筆手順

# はじめに

ここでは…

レポートや論文の具体的な執筆手順についてお話しします。

# レポート・論文を書く手順

## レポート・論文の執筆手順

書く前

- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④**実際に書く**
- ⑤推敲・最終チェック

※実際は、この手順を行き来しながら執筆を進めます。

# レポート・論文を書く手順

レポート・論文には、

問い  
(問題設定)

主張・結論  
(問いへの答え)

理由  
(主張の根拠・論拠)

という3つの要素が必要です。

- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④実際に書く
- ⑤推敲・最終チェック

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

問いとは…

レポート・論文のなかでこれから論じていく問題。  
その「答え」が、レポート・論文の「結論（主張）」に。

## 問いを明確化するには？

⇒ 関連する文献を読んで、気になるポイントを探す。

\* レポートの場合「問い」が課題としてすでに設定されている場合もあります。

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

## 文献を読む際には…

### 材料を探しながら読む

…レポートには、

問い

主張（答え）

理由（主張の根拠）

が必要です。

⇒ 文献を読む際には、その材料となるような記述や調査結果などを探しながら読み進めましょう。

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

〈材料を得るには…〉

- **批判的に読む**

なんとなく読み終わってしまわないよう、  
引っかかるポイントや賛成したいポイントなどを  
探しながら読む。

\* 批判的に→本当にそう？なぜそう言える？別の可能性はない？  
などを問いながら

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

〈材料を得るには…〉

- **メモを取りながら読む**

気になった箇所は、ノートや付箋などを使って、何が気になったのか、なぜ気になったのか、どう思ったのかなどについてのメモを残しておく。

\* 後で書こうと思っても、読み進めた後には忘れてしまう！

⇒ 「どの文献の」 「どの箇所について」 「何を考えたか」

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

## 問いを明確化する

⇒得られた材料をもとに、自分の主張ができそうな問いの形に整える。

### 問いの種類

事実に関する問い（例「場所（時代、領域、対象）によって違いはあるか」）

原因に関する問い（例「なぜ～は生じたのか」）

当為に関する問い（例「～すべきか」、「～は必要か」）

# ① 文献を読みながら、問いを明確化する

## 問いを明確化する

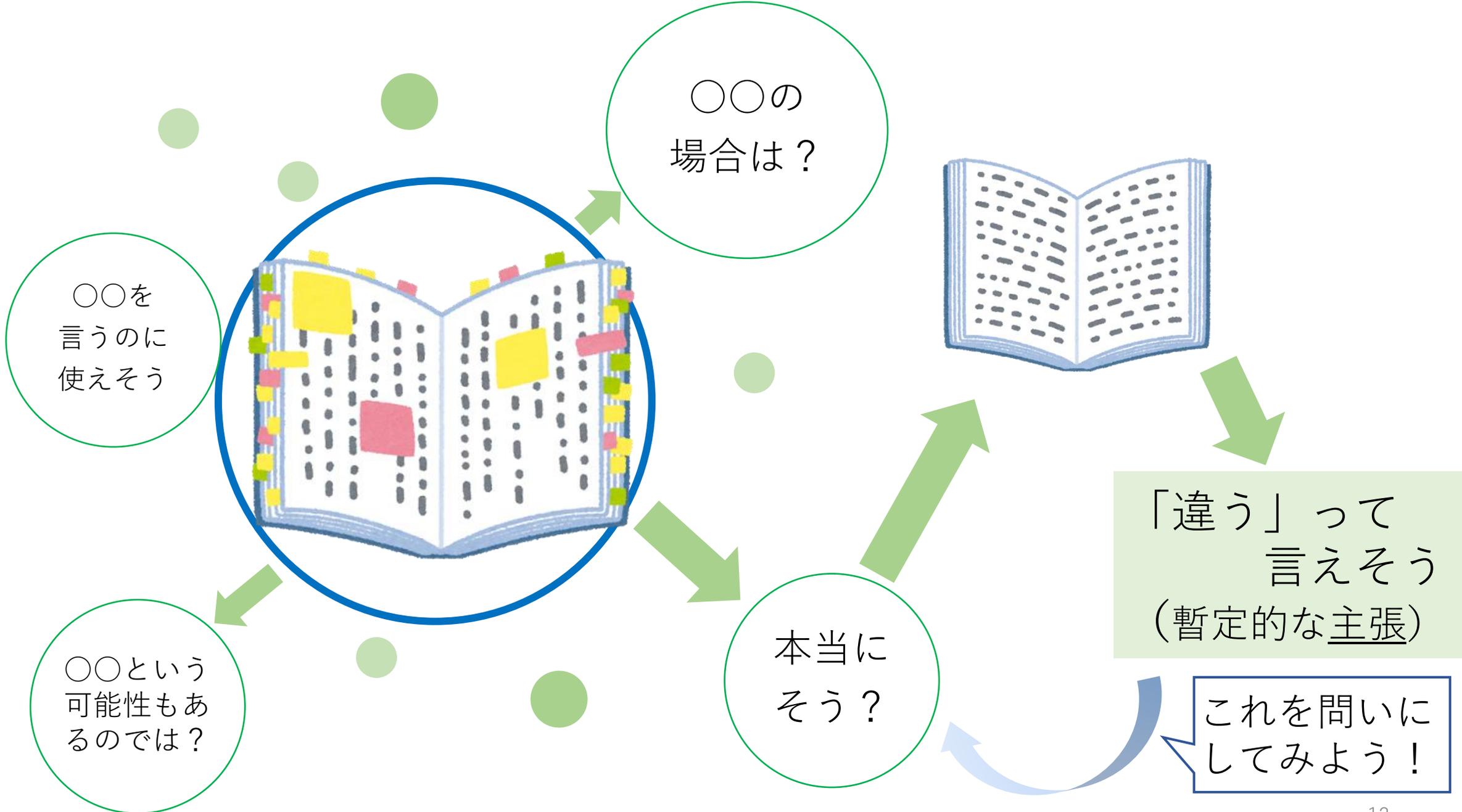
「本当に？」 「他の場合は？」 「なぜ？」 「どうやって？」  
「～すべき？」 「必要？」 などの問いを挙げて、  
何か言えそうかどうか考えてみる。

## ポイント

根拠を挙げながらひとつの答えを導けそうな問いを探す。

…暫定的な「主張」を予想する。

\* レポートの場合：課題にこたえているかチェックする。



- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④実際に書く
- ⑤推敲・最終チェック

## ② 得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する

### 得られた情報を整理する

- ・ 自分の問いに関連する文献・資料をさらに読む。  
→初めに読んだ文献の参考文献を見る。教員に聞く。など
- ・ 読んだ文献を、自分の問いと関連する部分を中心に整理し、  
(自分の言葉で) まとめなおす。  
→どのような根拠で、どのような主張がされているのか。

\* どの文献・資料の、どのページで言われていたことなのか、必ず書き留めておくこと。

## ② 得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する

### 自分の主張を明確化する

得られた情報と、自分の関心や暫定的な主張とを比較する。

⇒両者の類似点や相違点を検討する。

…例：自分の考えは、既存の考えと、なぜ、どのように違うのか。

⇒自分の考えが適切だと言えそうなポイントが見つかったら、それが自分の「主張」になる。

## ② 得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する

自分の考えが、適切だと言えそう？

→何かを「**主張**」するには、「**根拠**」や「**裏付け**」が必要。

\* 根拠や裏付けのない意見は、ただの「感想」です。

どうしてそう主張できるのか、読み手が検証できるよう、読み手が納得するよう、説明する必要があります。

⇒ しっかりした根拠や裏付けを与えられそうかどうか考える。

## ② 得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する

しっかりした根拠や裏付け？

文献・資料で示されていること、実験・調査の結果など（データ）  
を根拠や裏付けとして挙げる。

…伝聞、憶測だけでは根拠にはならない。



プラスチック製品は  
環境によくないので、  
消費を減らすべきだ。

**本当にそうだと言える  
データが必要！**

自分と異なる考えの人が  
読み手だと想定して、  
読み手も納得できる  
客観的なデータを挙げる。

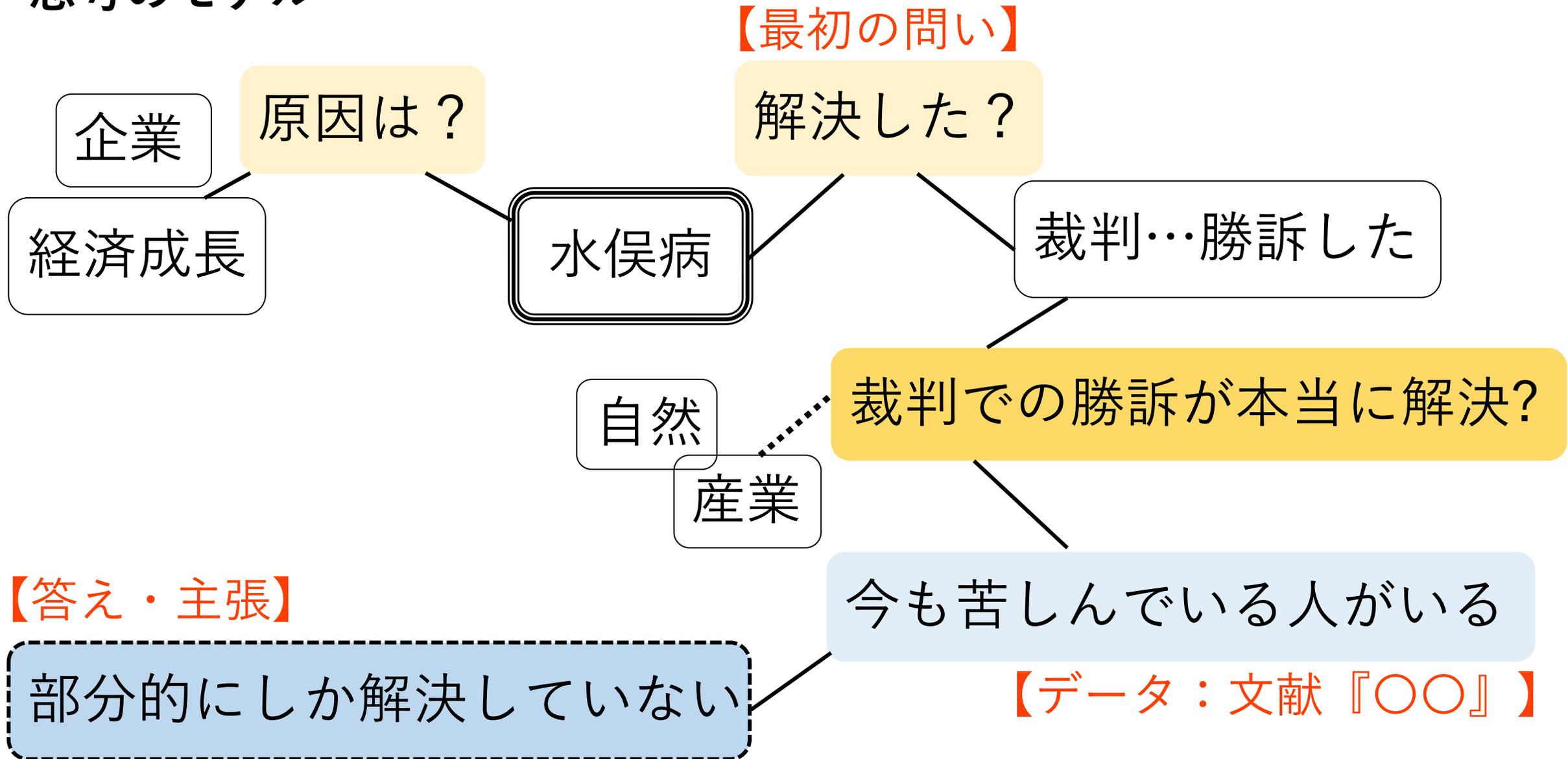
## ② 得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する

### 自分の主張を明確化する

レポートや論文の「主張」になるのは、

- ・ひとつ（いろいろな主張をするのではなく、ひとつの主張をするために書く）
- ・適切な裏付けや根拠を挙げることができる考え

# 思考のモデル



- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④実際に書く
- ⑤推敲・最終チェック

問いと主張、主張の根拠が得られたら、  
次は全体の骨組みを考える

### ③ アウトラインを作る

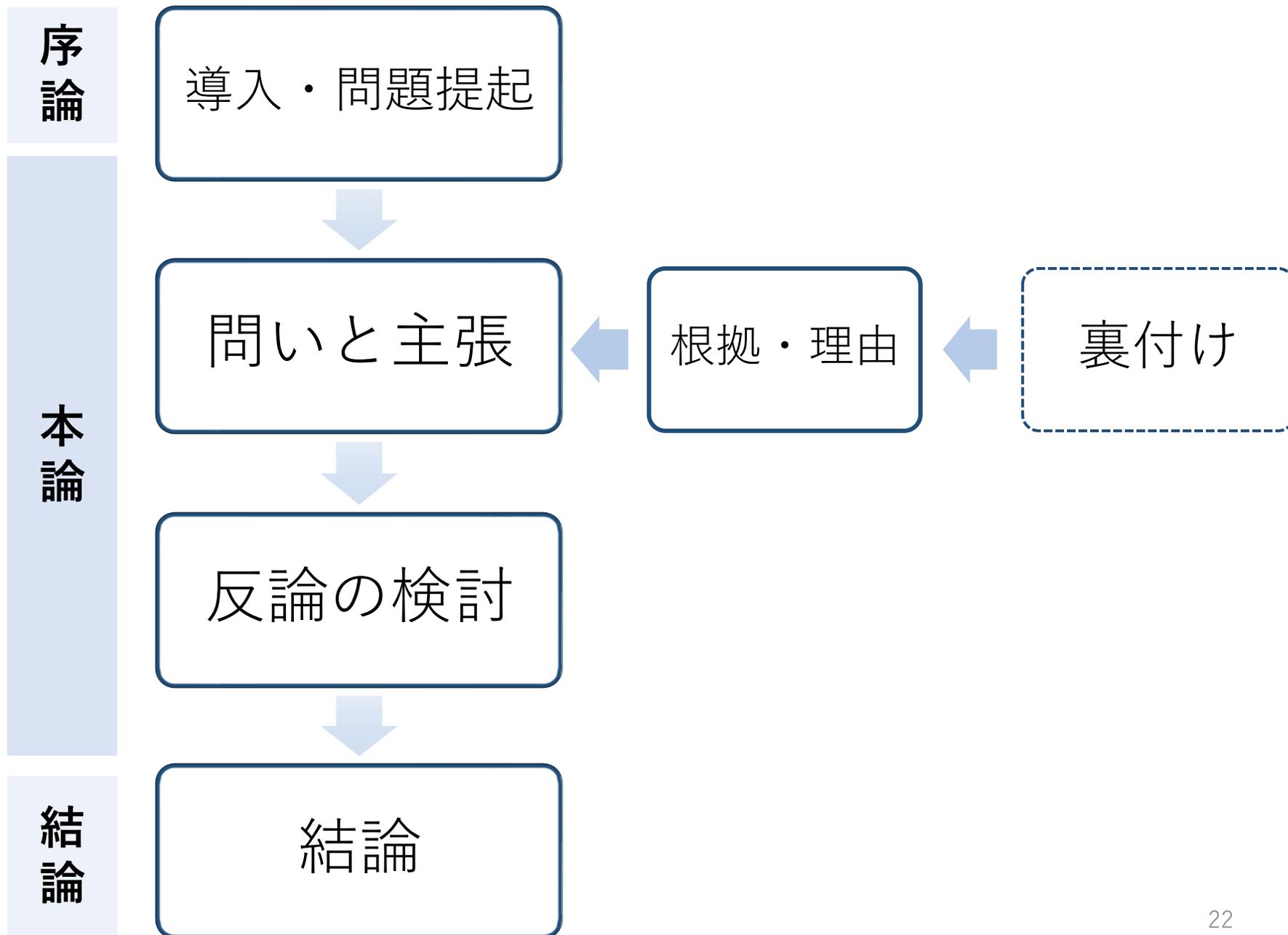
アウトラインとは…

レポートや論文の「全体の流れ・骨組み」を箇条書きにしたもの。

アウトラインは、レポート・論文を書く際の道しるべになります。

⇒ 本文を実際に書き始める前に、「全体の構成」に従ってアウトラインを作りましょう。

# 全体の構成



### ③ アウトラインを作る

序論に書くこと…

- 問題提起  
…その論文・レポートで、どのような問題について、  
どのような主張をしようとしているのか
- 本論の構成（論文・長めのレポートの場合）  
…その主張に向けて、どのように論じるのか  
各章・各節で何を述べるのか（簡潔に説明する）

### ③ アウトラインを作る

本論に書くこと…

- ・ 扱う問題についての詳しい説明
- ・ すでにある研究（先行研究）の整理
- ・ 自分の主張と、そう主張する根拠（理由・裏付け）
- ・ 自分の主張やその根拠に対して想定される反論  
自分の主張の問題点や限界
- ・ 反論や問題点への応答

### ③ アウトラインを作る

結論に書くこと…

- ・ 本論のまとめ
- ・ 最終的な自分の主張（序論に書いた自分の主張に対応）  
（・ 自分の主張の意義や残された課題）

## ※アウトラインの例

序論	1. 水俣病は全面的に解決したのか→していない	問いと主張
本論	2. 水俣病をめぐる司法的措置 - 公害認定と法整備の経緯【データ：『○○』△頁】 →これが水俣病の解決だとされている	問いの背景の共有
	3. なぜ水俣病が解決していないと考えるか - 根拠1【データ：『△』○頁】 - 根拠2【データ：『○○』□頁】	自分の主張の論証
	4. 解決などありえないということにならないか - 海外の事例【データ：『□□』◇頁】	反論の検討
結論	5. 水俣病は全面的に解決してはいない	主張の再確認

### ③ アウトラインを作る

アウトラインを作るときには…

- ・内容を分類して配置する
- ・議論や根拠が足りないところがないかをチェックする
- ・根拠に用いる文献についてのメモを記入しておく
- ・ひととおり書いたら、主張のために必要なことだけを残す

どのような問題について、  
どのような主張をするのか

導入・問題提起

根拠や理由に挙げた  
事柄が、もっともだ  
と言える証拠など

問いと主張

根拠・理由

裏付け

- ・自分の主張にありうる反論
  - ・自分の主張の問題点や限界
- ↓
- ・それでも、自分の主張が  
もっともだと言えるのは  
なぜ？

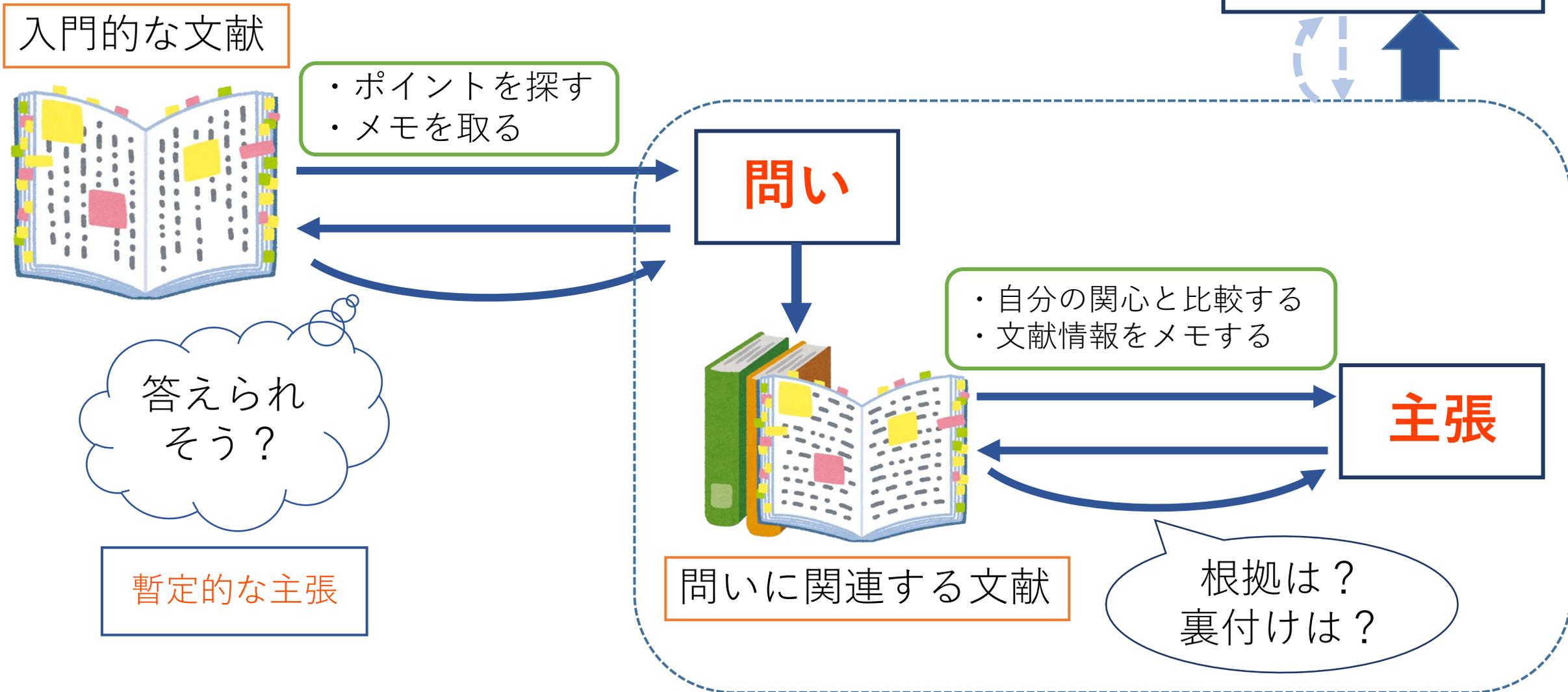
反論の検討

- ・反対者も納得できるような  
根拠・理由を挙げる
- ・感情に訴えるのではなく、  
論理的な説明をする

結論

はじめに書いた主張と  
対応させる

# ここまでの流れ



- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④実際に書く
- ⑤推敲・最終チェック

ようやく、書き始めます！

## ④ 実際に書く

実際にレポート・論文を書くには…

### アウトラインをふくらませる

…もっと調べる、詳しく説明する、具体例を挙げる、など

〈ふくらませ方の例〉

- ・まずは、各段落の1～2文目を、ひとつおき書いてみる。
- ・次に、根拠や裏付け、具体例などを挙げて、補強する。

## ④ 実際に書く

はじめのアウトラインでは

本論

3. なぜ水俣病が解決していないと考えるか

- 根拠 1
- 根拠 2

【データ：『△』○頁】

【データ：『○○』□頁】

自分の主張  
の論証

こうだったものを・・・

## ④ 実際に書く

### 3. なぜ水俣病が解決していないと考えるか

段落1：第2節までに確認したように、水俣病については、司法的措置によって解決が達成されたと考えられている。しかし、それは本当の解決ではないと指摘することもできるのではないだろうか。

段落2：第一に、人体や環境への深刻な影響が、今も残されているからだ。

段落3：第二に、公害を引き起こすような社会の構造は変わっていないという理由も挙げられる。

各段落に書く内容を代表するような1文  
(トピックセンテンス) をまずは書いてみる

## ④ 実際に書く

### 3. なぜ水俣病が解決していないと考えるか

第1段落：

第2段落：第一に、人体や環境への深刻な影響が、今も残されているからだ。  
たとえば、人体への影響としては、…  
次に、環境への影響としては、…

第3段落：第二に、公害を引き起こすような社会の構造は変わっていないという理由も挙げられる。もちろん、第2節で確認したように、法律の整備は進んだと言える。しかし、S. ジョージも言うように、「……

1文目に書いたことの根拠、補足、具体例などを書き足す

## ④ 実際に書く

・ うまくいかないときは？

- 問いを見直す
- 答え（主張）を見直す
- 根拠や裏付けが十分かを確かめる

\* 序論（はじめに）は、本文全体で何が述べられるのかを見渡す部分です。本論や結論を書き終わった後に書く場合もあります。

## ④ 実際に書く

レポート・論文を実際に書くときに気をつけること

- ・ 分かりやすい文章を心がける
- ・ 根拠や裏付けがあるということを読み手に示す  
→ 文献・資料で示されていること、実験・調査の結果などを  
根拠や裏付けとして挙げる。  
⇒ 適切に「引用」をしましょう。

## ④ 実際に書く

引用って？

…引用とは、自分の主張（論証）を補強するために、  
あるいは、自分とは異なる主張を説明するために、  
レポートや論文のなかで、他者の著作物を用いること。

自分の主張を支える根拠や裏付けを示すには、他者の著作物を用いる必要があります。

⇒ 引用は、レポートや論文を書く際には、必要不可欠。

## ④ 実際に書く

「引用」には、決まった形式があります。

- ①どこが書き手自身の議論であり、どこが第三者の書いたもの（主張や調査など）であるのかを、読み手が間違いなく区別できるようにするため

## ④ 実際に書く

「引用」には、決まった形式があります。

②他者の書いたものが、どこに書かれていたものであるのかを正確に示すため

→引用元の著作物を、読み手が直接確認して、真偽を確かめたり、さらに情報を得たりできるようにする。

## ④ 実際に書く

〈引用が「適切」に行われていないと…〉

- ・ 引用元の著作者の業績が、正当に評価されなくなってしまふ
  - ・ 研究不正（および著作権侵害）になりうる
- 引用の方法について、詳しくは「文献を引用する」で説明しています。

- ①文献を読みながら、問いを明確化する
- ②得られた情報を整理し、自分の主張を明確化する
- ③アウトラインを作る
- ④実際に書く
- ⑤推敲・最終チェック

書いたら終わり、ではありません

## ④ 実際に書く

ひとつおとり書き終わったら

1. **体裁を整える**：名前、所属、タイトルを書く  
表紙の有無などについての指示に従う
2. **読み直す**：文章表現、論証、構成のチェック
3. **時間をおく**：内容を知らない読み手の視点に近づく  
\* 誰かに読んでもらう
4. **読み直す**：（プリントアウトして）もう一度チェック